The Japanese Red Cross Hiroshima Coll. Nurs. 2 113 ～ 115. 2002

【研修報告】

看護大学教師に求められる資質について

－日本赤十字広島看護大学国際看護学米国研修に参加して－

迫　田　綾　子*

は　じ　め　に

看護教育における講義法について藤岡（1999）は，知識，技術などを，新しく意味付けして組織的・意図的・系統的に次の時代に伝えていく仕事であると述べている。「看護について学びたい」と入学した学生に対し，その思いを受け止め，看護に関する自己形成を支援するには，どんな方法を用い，何を根拠とすればいいのか。長い臨床看護婦生活から転身して教員となった筆者は，その答えに到達するために模索していた。折しも平成13年８月16日～８月30日，当大学の第一回国際看護学米国研修がセイラム州立大学看護学部で開催された。筆者は，米国における看護教育の現状と有用な講義法を肌で学ぶことを目的として参加した。セイラム州立大学での演習は，午前中は看護学の講義，午後は関連する病院及び施設見学であった。筆者は講義を聴講し，加えて学生の演習状況を観察した。その結果，学生の成長を促がし意欲を持たせる看護学教師の資質について貴重な示唆を得たので，5つのカテゴリーに分類し報告する。

学生を見守り続けること

８月16日の夜セイラム市に到着した。その翌日，まだ jet lag が残る中で初日の授業がはじまった。学部長の挨拶の後に登場したのが，T 教授と日本人留学生だった S さんである。彼女は昨年９月に同大学を卒業し，今は近隣の病院で看護婦（RN）として働いていた。T 教授は教室の前に彼女を招くと，「あなたはよくがんばった。入学時は英語が話せなかったのに，これだけの前で話せるようになったのを私は誇りに思います」と言いながら彼女を抱きしめた。S さんの目が潤んで，それから大粒の涙がこぼれた。遠い日本からはるばる東海岸にやってきて，英語を勉強しながら看護学を学ぶ18歳の女学生を，教師は４年間見守り続けていた。知識も技術も身体も小さな学生が，自己を形成し成長していくプロセスを，教授として観察し変革へと導いていたようである。学生を抱きしめ，思いっきり学習結果を誉めてやることができる教員は，学生との距離を相当近くに置く必要があると考える。しかしセイラム大学は，昼間学生5,000人，夜間も5,000人という超マンモス大学であり，看護学部は約800人の学生が在籍していた。また学生層は10代から50代までという混沌状態で，編入制度，修士，博士課程もある。筆者の看護婦や子育て体験からすると，「見守り続けること」は，容易そうで非常に難しいスキルと考えている。それ故に二人の Hugging は，学生の成長過程を見守った教師の喜びを表していた。そして背後には有用な教育システムの存在を感じた。

看護を愛すること

教師が「看護が好き」「I love nursing」というメッセージを発信することは，学生を惹き付ける最高の資質である。Critical Care 担当の L 教授は，それを我々に惜しむことなく発信した。「教える能力と臨床能力を共に維持すること」を貫いているそうで，「今は看護以外に愛するものはない」と誇り高い笑顔を我々に向けた。彼女の授業の魅力は，激動する今の看護を論理的，系統的に学生に伝えることであった。クリティカルな能力は，1）適切な臨床判断とスキルがあること，2）患者へのモラルを持って推進していくこと，3）ケアの基準を基に個別性を捉えるケアリングができる，4）よい結果が出る様に協動する，5）系統的，論理的に考える，6）責任，7）臨床的な探求と変革，8）新たなものを取り入れる

＊　日本赤十字広島看護大学　sakoda@jrchcn.ac.jp

能力だと語った。
様々な領域での活動があるようで，以前多職種が協動で働いているか否かを監視する委員会の立ち上げを担当したそうだ。その時の感想を聞かれて，「看護婦という職種や学歴で脅えたことはない」と言いきった。それは，「患者によい結果が出るように職種間で尊敬しあえる関係を作っていくこと，ケアリングを質的に向上させるスキルを持つこと」により協動できると，視線を学生に向けて話し続けた。講義の最初から最後まで，「看護が好き，看護を伝えたい，人を育てたい」という強烈なメッセージが迫ってきた。

学生と影響しあうこと

看護の楽しさ素晴らしさを語る教師に，学生は関心を示し，多くの質問が出た。「今まで看護の楽しさを語ってくれる人に出会ったことがなかったが，先生はそれを話された。その訳を聞かせて欲しい」の問いには，「I think good roll model」と返事があった。編入生がこれまでに，看護の楽しさを聞かなかったというのも寂しいが，そう言わせてしまう程に看護の創造性や発展性に正面から切り込んだ講義であった。「私自身がロールモデルになることで，看護の楽しさを伝えることができる。また学生から学ぶことがある。学生は絶えず新しいことを求めてくるから，これでは駄目だ，もっと学ばなくちゃあと思う。そのためには学生と影響しあう関係を作っていく」ことだと語った。

臨床経験を重ねること

米国の医療構造の変化で，病院の概念は急速に変化しつつある。現在は急性期の患者が入院して治療するのが病院であり，入院日数も超短期である。日本では制度的に考えられないが，大学教師と635床の病院夜勤婦長として兼務するのがＬ教授である。「教師は一流の臨床家であり続けること」が信念であった。勤務は週に１回，午後３時から11時までと聞いた。そのメリットとして，「病院に出て行くことで，経験の浅い新人ナース（green nurse と呼ばれている）が非常に危険な状態に陥ることを回避できる。それは入院期間の短縮による看護のやりがいの喪失や，患者の重症化による技術不足等をカバーすること，そうすることで彼女たちのロールモデルになれる」ことであると語った。彼女は病院で働く傍ら，子育てに加え病気の家族を介護しながら大学院で学び，教師になったという。
Ｌ教授はICUを始めとして様々な治療部門を案内する途中，馴染みの職員に出会う度に（とっても多いこと！）声をかけ合いながら，飛びっきりの笑顔で我々を紹介してくれた。この態度や行動の根源は何だろう。看護や人間大好きだからか，それとも人間性か。教師と病院職員との良好な関係は，学生実習においては必須である。臨床能力を維持することは，学生の臨床実習時の指導能力にも大きく影響するであろう。対象施設の特徴や理念，患者の背景，看護等が学生に率直に伝えられ，また人間関係を維持できることも重要な教師の役割であろう。Ｌ教授に限らず，他の教師も働たり，研究のフィールドとして臨床を活用していた。その背景には，看護大学教師の待遇面も一因であるようだった。学生の休暇中は無給なのが一般的だそうである。

自らの研究を語ること

研究者として何をしてきたか。何に興味を持っているか。そのプロセス，その問題点は…等を，学生が理解できる容易な表現で語れることは，学生を興奮させ問題意識を高揚させる。エクアドル，ベトナム等の異文化の中で研究生活をしてきた体験と環境問題を提示されたのは，Public HealthのＰ教授であった。Code of Ethics is Universal Declaration of Human Right に続き，ベトナムにおける自らの禁煙プログラムの講義が始まった。タバコがアメリカの会社で生産され，東南アジアに輸出されている現実と，肺ガンの罹患率の変化（上昇）が示された。それらは現実的な問題として学生には受け止められたようである。「なぜ，危険とわかっているタバコをアジアに輸出する必要があるのか」との問いに議論が沸いた。ジレンマだそうである。今後のアメリカの健康教育として，「Food Quality」，「Waste control」「Radiation control」，「Folks」，「Family」等が出された。水質汚染，ホームレス，ラテックスアレルギー等の環境問題も多発傾向であり，看護職が住民の代弁者となるための役割や研究の重要性を強調した。自らの研究を学生に語れる確かな実績，意味ある看護研究が重要であることを示していた。最後に筆者の関心のひとつであるPRECEDE-PROCEEDモデルが米国の看護教育や健康政策で日常的に用いられているかを確認させてもらった。回答は「Yes」であり，今後研究を深めていく確信となった。

お わ り に

セイラム大学における演習は，看護の専性に加えその背景にある文化的，教育的価値と看護の意味を伝えてくれた。よい講義のための工夫として藤岡(1999) は，1) 教師の全身でメッセージを送る，2) 学生の反応を敏感に受け止める，3) 学生が参加できる講義等をあげている。米国の看護学教師は，それを実証してくれ，よい教育は国が異なっても変わらないことを実感することができた。そして筆者に教師の資質をも問うていた。長い臨床経験を講義法や教育力の向上にどの様に活かせるかの点では，米国の看護教師から学ぶことは非常に多く，今後に生かせると考える。演習への参加の機会を与えていただいたことに感謝している。

帰国して2週間後の9月11日，セイラム市の南に位置するニューヨークで同時多発テロが発生した。学生達と見上げたあの貿易センタービルが一瞬にして消え去った。そして戦争が始まった。人が人を憎み殺し会うことは看護の理念とは相容れない。教師として，また人として何ができるか，何が求められているか，今だ問い続けている。

参 考 文 献

藤岡完治，堀喜久子 (1999). わかる授業をつくる 看護教育技法1講義法. 11－13. 東京，医学書院.